

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の概要（和歌山県）

1 調査の概要

(1) 調査基準日 令和7年4月17日（木）

中学校理科は、令和7年4月14日（月）～17日（木）に分散してCBT*で実施

(2) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

① 調査を実施した学校・児童生徒

全公立小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

全公立中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

	国語	算数・数学	理科
学校数・児童数(小6)	218校・6,301人	218校・6,298人	218校・6,306人
学校数・生徒数(中3)	113校・5,948人	113校・5,962人	113校・5,922人

② 教科に関する調査

国語、算数・数学、理科

③ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

・ 児童生徒に対する調査

（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

・ 学校に対する調査

（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

2 教科に関する調査結果

(1) 全国（公立）の平均正答率の状況

単位：％

	小学校国語		小学校算数		小学校 理科	中学校国語		中学校数学		中学校 理科	中学校 英語
	A	B	A	B		A	B	A	B		
H29	75	58	79	46		77	72	65	48		
H30	71	55	64	52	60	76	61	66	47	66	
H31(R1)	64		67			73		60			56
R3	65		70			65		57			
R4	66		63		63	69		51		49	
R5	67		63			70		51			46
R6	68		63			58		53			
R7	67		58		57	54		48		503※	

※ R7 中学校理科は、CBT*が導入され、平均IRTスコア*で結果が示されている。

※ R2 は新型コロナウイルス感染症の影響等により実施見送り。

※ H31(R1)からは、全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のAB区分がなくなっている。

*CBT…Computer-based Testing：コンピュータ使用型調査の略。冊子を用いた従来の筆記方式の調査はPBT(Paper-based Testing)と表記される。

*IRT…Item Response Theory：項目反応理論の略。児童生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、学力によるのかを区別して分析し、学力スコアを推定する統計理論。この理論に基づいて、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表したものがIRTスコアである。

(2)和歌山県（公立）の平均正答率の状況

単位：％

	小学校国語		小学校算数		小学校理科	中学校国語		中学校数学		中学校理科	中学校英語
	A	B	A	B		A	B	A	B		
H29	75	57	79	46		77	70	65	48		
H30	72	55	63	51	60	75	59	67	45	65	
H31 (R1)	64		66			70		59			55
R3	65		70			61		55			
R4	65		63		63	66		50		46	
R5	68		63			67		50			44
R6	68		64			55		50			
R7	68		58		57	52		45		480※	

※ R7 中学校理科は、CBT が導入され、平均 IRT スコアで結果が示されている。

※ R2 は新型コロナウイルス感染症の影響等により実施見送り。

※ H31 (R1)からは、全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のA B区分がなくなっている。

(3)和歌山県（公立）の平均正答率と全国（公立）の平均正答率との差

単位：％

	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
県	68	58	57	52	45	480※
全国	67	58	57	54	48	503※
差	1	0	0	-2	-3	-23※

※ R7 中学校理科は、CBT が導入され、平均 IRT スコアで結果が示されている。

○小学校は、国語が全国を上回り、算数、理科は全国と同程度となった。中学校は、全ての教科で全国を下回った。

(4)和歌山県（公立）の無解答率〔平均〕と全国（公立）の無解答率〔平均〕との比較
(小学校)

単位：％

	国語		算数		理科	
	県	全国	県	全国	県	全国
R5	2.8	4.8	2.3	3.4		
R6	2.3	4.2	2.3	3.4		
R7	1.8	3.3	2.7	3.6	1.8	2.8

(中学校)

単位：％

	国語		数学		理科	
	県	全国	県	全国	県	全国
R5	5.2	4.6	10.1	9.6		
R6	4.3	3.9	12.2	11.3		
R7	7.5	6.7	11.9	10.6	2.3	1.8

○小学校は、全ての教科で全国より低くなった。中学校は、全ての教科で全国より高くなった。（中学校理科は、各公開問題の無解答率を平均した数値。）

(5)記述式問題における和歌山県（公立）の平均正答率と全国（公立）の平均正答率との差

単位：％

	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
県	61.6	36.2	49.5	23.2	36.6	34.3
全国	58.8	34.9	45.2	25.4	39.6	39.3
差	2.8	1.3	4.3	-2.2	-3.0	-5.0</

3 教科の概要

◇…「できている」と考えられるもの

◆…「課題がある」と考えられるもの

[] 内は、問題番号と正答率

【小学校国語】

小学校国語の平均正答率は 68%であった。

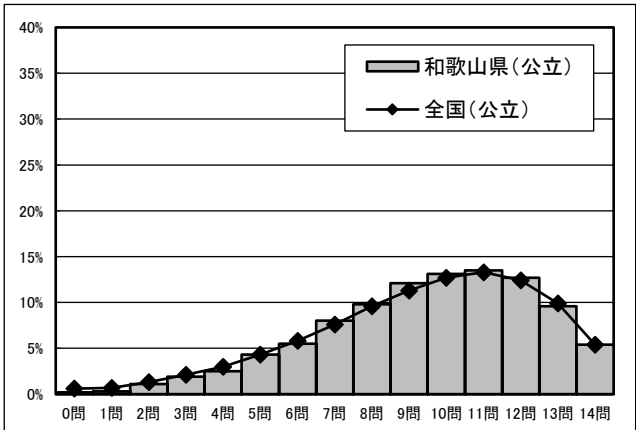
◇自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることはできている。 [1]三(1) 73.1%

◇目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することはできている。 [2]三 65.5%

◆事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がある。 [3]二(2) 48.0%

◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。 [3]三(1) 39.3%

正答数分布グラフ



学習指導要領の内容別平均正答率

単位：％

[小学校国語]		和歌山県 (公立)	全国 (公立)	差
知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や 使い方に関する事項	82.4	76.9	5.5
	(2) 情報の扱い方 に関する事項	63.6	63.1	0.5
	(3) 我が国の言語 文化に関する事項	81.8	81.2	0.6
思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞く こと	66.6	66.3	0.3
	B 書くこと	70.2	69.5	0.7
	C 読むこと	56.8	57.5	-0.7

【中学校国語】

中学校国語の平均正答率は 52%であった。

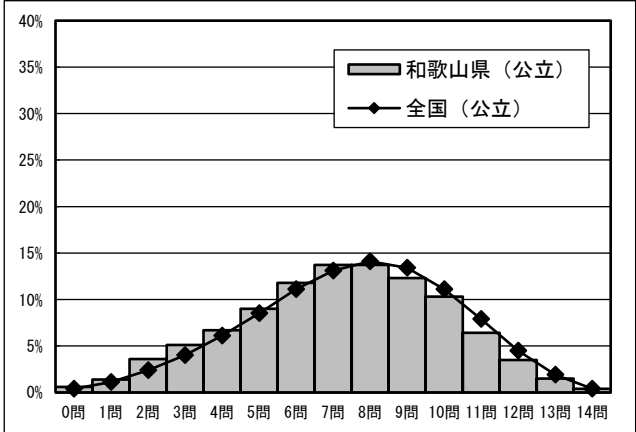
◇文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。 [3]二 88.1%

◆書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることに課題がある。 [1]三 58.6%

◆資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。 [2]四 20.2%

◆文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。 [3]四 13.8%

正答数分布グラフ



学習指導要領の内容別平均正答率

単位：％

[中学校国語]		和歌山県 (公立)	全国 (公立)	差
知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や 使い方に関する事項	46.0	48.1	-2.1
	(2) 情報の扱い方 に関する事項			

【小学校算数】

小学校算数の平均正答率は 58%であった。

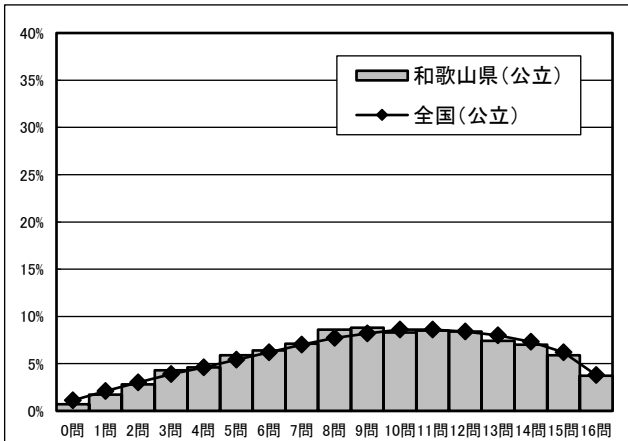
◇角の大きさについて理解することはできている。 [2](3) 79.3%

◇異分母の分数の加法の計算をすることはできている。 [3](4) 85.4%

◆数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題がある。
3 33.2%

◆「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。 4 36.8%

正答数分布グラフ



学習指導要領の領域別平均正答率

単位：%

[小学校算数]	和歌山県 (公立)	全国 (公立)	差
A 数と計算	62.0	62.3	-0.3
B 図形	55.9	56.2	-0.3
C 測定	54.7	54.8	-0.1
C 変化と関係	55.8	57.5	-1.7
D データの活用	62.7	62.6	0.1

【中学校数学】

中学校数学の平均正答率は 45%であった。

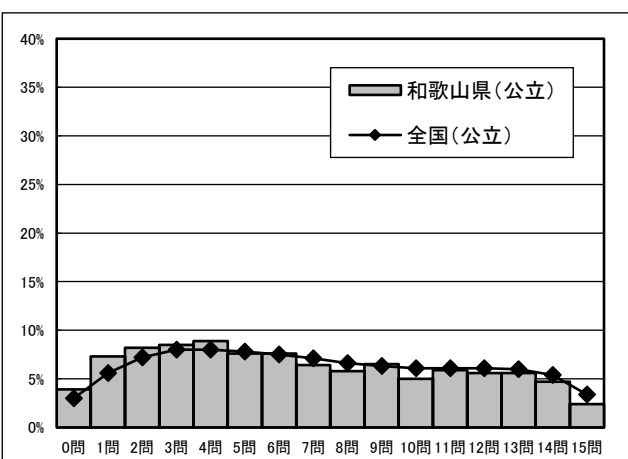
◇必ず起こる事柄の確率について理解することはできている。 [7](1) 74.9%

◆式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。 [6](2) 22.4%

◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。 [8](2) 31.9%

◆統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題がある。
[9](2) 33.1 %]

正答数分布グラフ



学習指導要領の領域別平均正答率

単位：%

[中学校数学]	和歌山県 (公立)	全国 (公立)	差
A 数と式	40.0	43.5	-3.5
B 図形	44.6	46.5	-1.9
C 関数	44.6	48.2	-3.6
D データの活用	54.4	58.6	-4.2

【小学校理科】

小学校理科の平均正答率は57%であった。

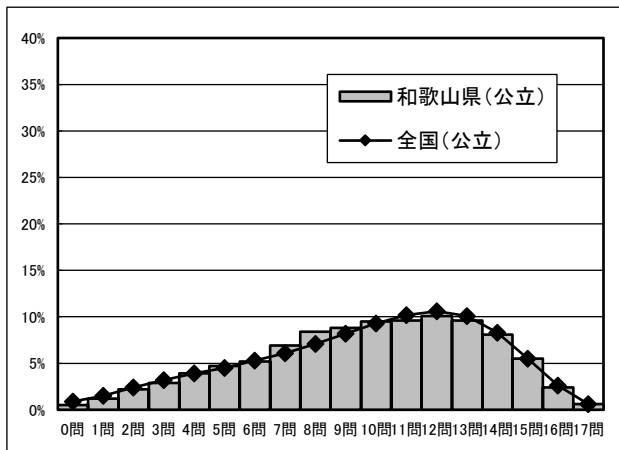
◇赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することはできている。 [1](2) 70.1%]

◇電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識は身に付いている。 [2](3) 77.7%]

◆顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能を身に付けることに課題がある。 [3](2) 44.2%]

◆レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題がある。 [3](4) 28.8%]

正答数分布グラフ



学習指導要領の領域別平均正答率

単位：%

[小学校理科]		和歌山県 (公立)	全国 (公立)	差
A区分	「エネルギー」を柱とする領域	47.0	46.7	0.3
	「粒子」を柱とする領域	50.5	51.4	-0.9
B区分	「生命」を柱とする領域	50.8	52.0	-1.2
	「地球」を柱とする領域	67.1	66.7	0.4

【中学校理科】 CBT で実施

中学校理科の平均 IRT スコアは480であった。

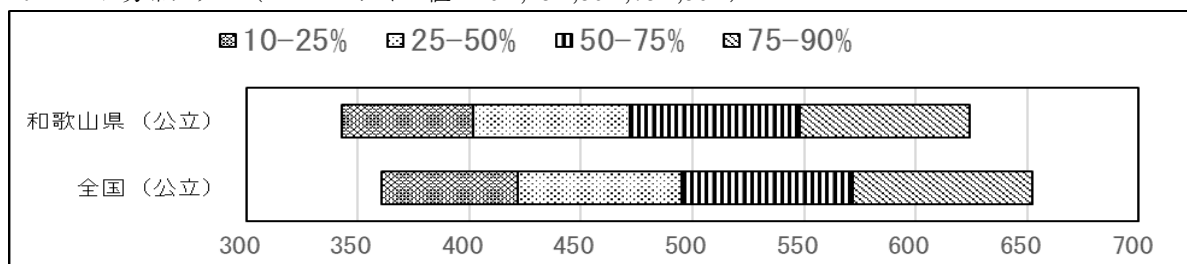
◇気体の性質に関する知識を概念として身に付けることはできている。 [4](2) 93.7%]

◆身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することに課題がある。 [1](2) 40.1%]

◆【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある。 [2](1) 12.2%]

◆化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題がある。 [5](2) 27.4%]

IRT スコア分布グラフ (パーセンタイル値：10%,25%,50%,75%,90%)



学習指導要領の領域別平均正答率

単位：%

[中学校理科]		和歌山県 (公立)	全国 (公立)	差
A区分	「エネルギー」を柱とする領域	55.2	56.1	-0.9
	「粒子」を柱とする領域	56.5	61.7	-5.2
B区分	「生命」を柱とする領域	40.6	44.8	-4.2
	「地球」を柱とする領域	32.4	37.3	-4.9

※各公開問題の平均正答率を領域別に算出

4 児童生徒質問調査結果 ※児童質問調査 71 項目、生徒質問調査 72 項目より、特徴のあるものを抜粋。

(1) 【学習に対する興味・関心、授業の理解度】

- ①「勉強は好きですか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校の算数は全国を上回り、小学校の国語は同程度であるが、小学校の理科、中学校の全ての教科で全国を下回り、中学校は全国と差がある。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5国語	61.4	61.5	-0.1
R6国語	61.4	62.0	-0.6
R7国語	58.3	58.3	0.0
R5算数	66.2	61.4	4.8
R6算数	66.0	61.0	5.0
R7算数	61.0	57.9	3.1
H30理科	81.0	83.5	-2.5
R4理科	78.3	79.7	-1.4
R7理科	78.0	80.1	-2.1

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R5国語	55.4	61.4	-6.0
R6国語	62.8	64.3	-1.5
R7国語	52.1	57.9	-5.8
R5数学	57.9	56.7	1.2
R6数学	56.7	57.2	-0.5
R7数学	50.4	53.8	-3.4
H30理科	57.2	62.9	-5.7
R4理科	63.7	66.4	-2.7
R7理科	60.1	63.8	-3.7

- ②「授業の内容はよく分かりますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校の国語、算数、中学校の全ての教科で全国を上回っているが、小学校の理科は全国を下回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5国語	87.5	85.7	1.8
R6国語	88.5	86.3	2.2
R7国語	84.2	82.8	1.4
R5算数	84.4	81.2	3.2
R6算数	86.1	82.1	4.0
R7算数	82.0	78.3	3.7
H30理科	88.8	89.4	-0.6
R4理科	87.9	88.5	-0.6
R7理科	87.8	88.9	-1.1

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R5国語	79.0	80.0	-1.0
R6国語	84.8	82.7	2.1
R7国語	77.4	77.0	0.4
R5数学	77.1	73.3	3.8
R6数学	77.7	75.7	2.0
R7数学	73.4	70.3	3.1
H30理科	71.4	70.0	1.4
R4理科	76.2	75.2	1.0
R7理科	73.0	71.4	1.6

- ③「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください」について、「よくある」「たまにある」と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国を上回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R7	76.7	75.5	1.2

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R7	71.9	70.2	1.7

- ④「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか（中学校：「国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか）」について、「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答

- ⑤「算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校は全国を上回り、中学校は全国を下回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R6	80.1	77.9	2.2
R7	84.3	83.3	1.0

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R6	54.7	57.2	-2.5
R7	57.0	57.9	-0.9

※R6年度の調査項目は「算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」である。

- ⑥「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校は全国を上回り、中学校は全国を下回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R6	85.8	83.3	2.5
R7	84.7	82.3	2.4

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R6	77.4	78.1	-0.7
R7	74.2	76.2	-2.0

- ⑦「理科の授業で学習したこと（中学校：知識）を普段の生活の中で活用できていますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校は全国を上回っているが、中学校は全国を下回り、差がある。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
H30	63.3	64.7	-1.4
R4	66.3	67.9	-1.6
R7	63.4	63.2	0.2

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
H30	39.2	45.4	-6.2
R4	47.4	52.7	-5.3
R7	51.2	54.7	-3.5

※H30年度、R4年度の調査項目は「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」である。

- ⑧「理科の授業では、問題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか（中学校：自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか）」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国を下回り、中学校は全国と差がある。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
H30	73.3	75.2	-1.9
R4	76.1	78.0	-1.9
R7	84.7	85.7	-1.0

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
H30	50.4	58.5	-8.1
R4	59.1	64.5	-5.4
R7	66.8	70.2	-3.4

※H30年度、R4年度の調査項目は「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」である。

(2)【学習指導】

- ①「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」について、「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した割合は、小学校は全国を上回っているが、中学校は全国を下回り、差がある。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5	65.3	63.7	1.6
R6	68.3	67.6	0.7
R7	69.0	68.6	0.4

- ②「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国を下回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5	78.0	78.8	-0.8
R6	82.0	81.9	0.1
R7	79.6	80.3	-0.7

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R5	78.6	79.2	-0.6
R6	79.5	80.3	-0.8
R7	74.8	77.7	-2.9

- ③「学級の友達（中学校：生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校は全国を上回り、中学校は全国を下回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5	83.3	81.8	1.5
R6	87.6	86.3	1.3
R7	85.8	84.9	0.9

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R5	77.8	79.7	-1.9
R6	84.7	86.1	-1.4
R7	82.4	84.7	-2.3

※R5年度までの調査項目は「学級の友達（中学校：生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」である。

- ④「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校は全国を上回り、中学校は全国を下回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5	78.7	77.4	1.3
R6	82.5	80.8	1.7
R7	81.3	79.4	1.9

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R5	68.5	69.2	-0.7
R6	76.4	77.9	-1.5
R7	71.3	73.4	-2.1

- ⑤「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国を下回り、差がある。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5	70.4	74.8	-4.4
R6	80.6	81.3	-0.7
R7	78.6	82.3	-3.7

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R5	64.5	72.6	-8.1
R6	77.2	82.2	-5.0
R7	72.5	79.5	-7.0

(3) 【ICT 機器を活用した学習状況】

- ①「5年生まで（中学校：1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」について、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国を下回り、差がある。

(小学校)

単位：%

児童質問	県	全国	差
R5	49.8	62.4	-12.6
R6	48.0	59.5	-11.5
R7	63.6	71.7	-8.1

(中学校)

単位：%

生徒質問	県	全国	差
R5	51.3	61.1	-9.8
R6	54.6	64.4	-9.8
R7	67.7	76.5	-8.8

(4) 【学習習慣】

- ①「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」について、「全くしない」と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国より高い。

(小学校)

単位：%

児童質問	県	全国	差
R5	4.9	4.6	0.3
R6	7.1	5.3	1.8
R7	6.7	5.7	1.0

(中学校)

単位：%

生徒質問	県	全国	差
R5	8.5	6.0	2.5
R6	9.6	6.6	3.0
R7	10.5	7.7	2.8

(5) 【生活習慣、挑戦心、自己有用感】

- ①「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」について、「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国を上回っている。

(小学校)

単位：%

児童質問	県	全国	差
R5	91.0	90.5	0.5
R6	91.4	91.6	-0.2
R7	92.0	91.0	1.0

(中学校)

単位：%

生徒質問	県	全国	差
R5	92.0	91.3	0.7
R6	93.0	92.5	0.5
R7	92.8	92.6	0.2

- ②「自分には、よいところがあると思いますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校は全国を上回り、中学校は全国と同程度である。

(小学校)

単位：%

児童質問	県	全国	差
R5	84.7	83.5	1.2
R6	85.7	84.1	1.6
R7	88.7	86.9	1.8

(中学校)

単位：%

生徒質問	県	全国	差
R5	80.2	80.0	0.2
R6	82.5	83.3	-0.8
R7	85.7	86.2	-0.5

- ③「将来の夢や目標を持っていますか」について、「当てはまる」「どちらかといえ
ば、当てはまる」と回答した割合は、小学校は全国と同程度であり、中学校は全国を
下回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5	80.5	81.5	-1.0
R6	81.1	82.4	-1.3
R7	82.7	83.1	-0.4

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R5	65.2	66.3	-1.1
R6	64.6	66.3	-1.7
R7	66.2	67.5	-1.3

- ④「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」について、「当てはまる」
「どちらかといえ、当てはまる」と回答した割合は、小学校は全国を上回り、中学校
は全国を下回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5	78.8	76.5	2.3
R6	77.9	75.8	2.1
R7	80.6	78.1	2.5

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R5	76.7	77.6	-0.9
R6	74.8	76.2	-1.4
R7	77.1	79.2	-2.1

(6) 【地域とのつながり】

- ①「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について、「当てはま
る」「どちらかといえ、当てはまる」と回答した割合は、小学校は全国を上回り、
中学校は全国を下回っている。

(小学校)

単位: %

児童質問	県	全国	差
R5	78.0	76.8	1.2
R6	85.3	83.5	1.8
R7	81.8	81.3	0.5

(中学校)

単位: %

生徒質問	県	全国	差
R5	63.6	63.9	-0.3
R6	76.4	76.1	0.3
R7	73.5	75.3	-1.8

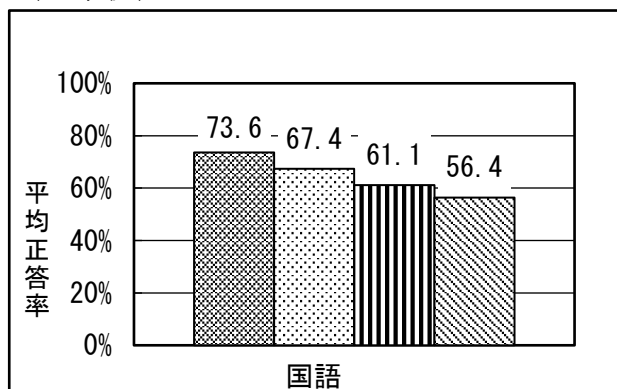
※R4年度までの調査項目は「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」である。

5 児童生徒質問調査と教科調査のクロス分析

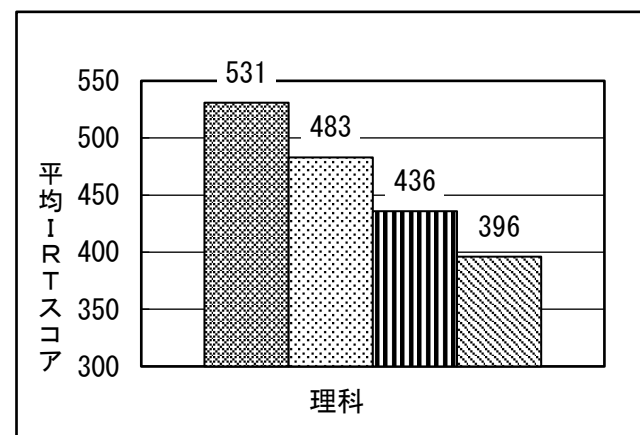
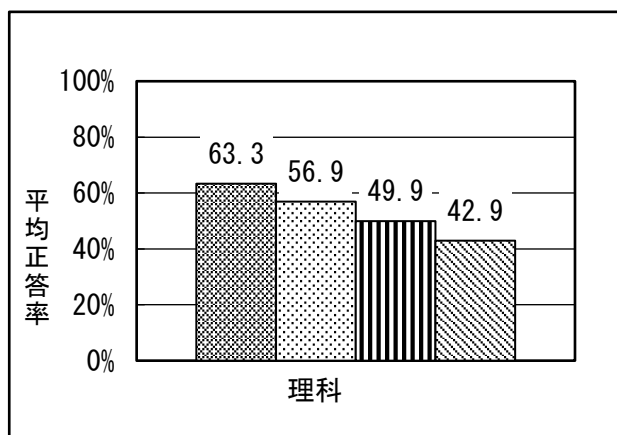
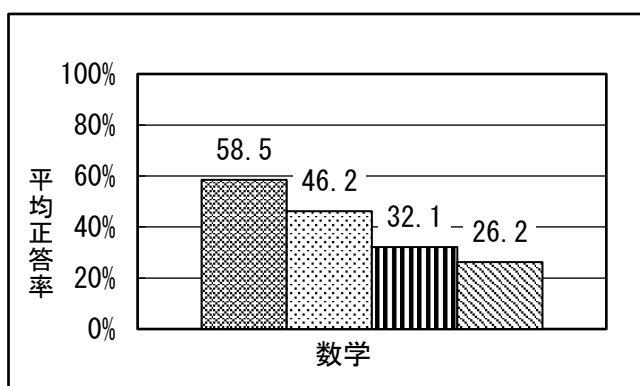
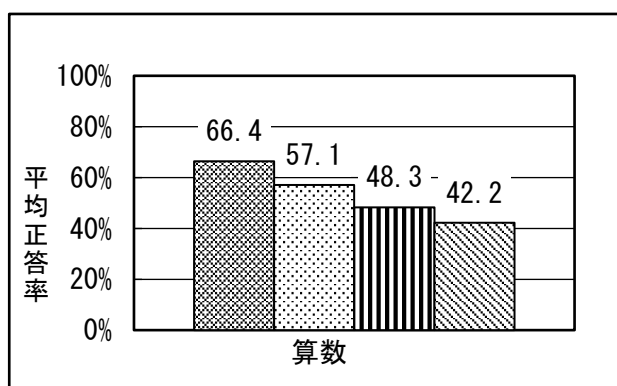
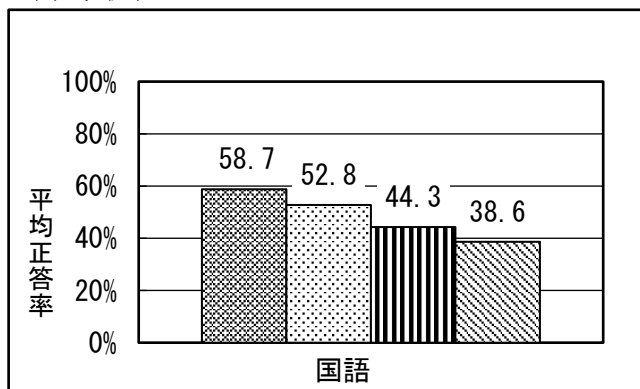
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」と各教科調査とのクロス分析

■1.当てはまる ■2.どちらかといえば、当てはまる ■3.どちらかといえば、当てはまらない ■4.当てはまらない

(小学校)



(中学校)



○小学校、中学校ともに、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の方が、教科の平均正答率・平均 IRT スコアが高い傾向が見られる。